

5,784 枚のクリスマスカードをお届け

沿岸部に住むいわて生協の組合員へお菓子を添えて



共同購入の職員がお届けしました。

いわて生協は、12月10日～14日に、共同購入（宅配）を利用している沿岸部の組合員へ、全国から寄せられたクリスマスカードを届けました。このカードは、コープとうきょう・コープかながわ・コープしずおか・市民生協やまなし・コープあいち・コープかがわ・コープおきなわの組合員

から送られてきたもので、合計5,784枚になりました。

カードには、津波の被害を受けた地域の福祉施設5カ所で作られた約5,000個のお菓子が添えられました。このお菓子はいわて生協が購入したもので、いわて生協組織本部コープ活動支援グループチーフの小野寺真さんは、「少しでも被災された沿岸部の皆さんの仕事づくりに協力できたら」とその思いを話します。カードとクッキーは、22人の組合員ボランティアが3日間かけて袋詰め作業を行ない、共同購入の職員が届けました。

カードを受け取った組合員からは、「早速飾りました」「思いがけない

カードとお菓子にととても感激しました」といった電話が何本もいわて生協本部にかかってきました。

いわて生協では、ひなまつり、七夕など、季節のイベントごとに沿岸部の組合員にカードを届ける取り組みを行っており、「継続して応援すること」に力を入れています。



お菓子とクリスマスカード。

復興のシンボル仙台白菜が、大きく育ちました

食のみやぎ復興ネットワーク「仙台白菜プロジェクト」収穫祭



収穫を行なう高橋理事（左）とJA全農みやぎ大友さん。

「食のみやぎ復興ネットワーク」はJA全農みやぎや地域の高校と協力して仙台白菜プロジェクトを進めています。11月24日には収穫祭が行なわれ、白菜の種まきや定植に参加した人たちが集合しました。

白菜プロジェクトには地区の組合員委員も参加しています。組合員理事の高橋誠子さんは、「みんなで白菜

レシピを考えて、メンバー（組合員）さんに仙台白菜を広めようと話してるんですよ」

JA全農みやぎの大友良彦さんは、ある風景が心に残っていると言います。「震災後、東松島のがれきの中で黄色い花が咲いていたんです。白菜の花でした。この白菜で宮城が元気になれる。そう思いました」

みやぎ生協では、仙台白菜の普及にあたって15秒のTVCMを作成。11月10日から1週間、地元のテレビ局で流しました。TVCMでは、祖父の代から仙台白菜を作っている岩沼の生産者、高橋 宏一さんが畑で「いっぱい、食べてください」と笑顔

で呼び掛けます。

食のみやぎ復興ネットワーク事務局の藤田孝さん（みやぎ生協）は、「今後は宮城だけでなく、全国にも仙台白菜のブランドを広げたいです」と話していました。



11月30日にコープこうべ36店舗で行なわれた「みやぎ生協絆フェア」の様子。仙台白菜を中心に、宮城県産野菜が供給された。